

令和3(2021)年「正覚寺報」6月号

お知らせ

漸くコロナワクチン接種が始まりました。
用心深く、大切なご法座は、きちんとマスクを
し、自ら管理し、心して営ませて戴きましょう。

記

仏教壮年会お聴聞の会(6月6日(日)20時)

仏教婦人会例会(6月16日(水)19時半)

「大行釈」「称名破満釈(しょうみょうはまんじやく)」「六字釈」を頂戴してみましよう。

昨年未滋賀組の親鸞聖人讃仰布教会の企画「漫画歎異抄を読もう」に賛同して、当院仏教壮年会お聴聞の会でも早速その企画を展開し、中でも桜井鎔俊和上の「歎異抄を読み解く」を拝読し、少なからぬ示唆を頂戴しました。

親鸞聖人の顕された『ご本典』の「行巻」には、「大行釈」、「称名破満釈」、「六字釈」という親鸞聖人の御自釈があります。

「六字釈」は、浄土真宗の特徴である、本願力回向と本願招喚の勅命が「南無」とは「歸命」の二文字に秘められていることが明らかにされているのであり、「お六字は、本願招喚の勅命(本願のお心から喚び続けて下さる如来様のお姿だ)と頂戴することは、現代人にとって称名報恩よりも素直に頂戴できるみ教えの頂戴しぶりであると専如御門主が重要視していらっしゃるところであります。

「大行釈」は、「大行とは、則ち、無碍光如来の名(みな)を称するなり」という定義文です。大行釈の一文には主語がありません。主語が記載されていない日本語の特徴として、その主語は、大行を回向されて称える衆生である

と同時に、回向なさる如来様でもあります。ですから衆生が「南無阿弥陀佛」と称えた途端、衆生の上で如来様(方便法身)の大行が働き出して下さり、お名号の功德が愚かな衆生の身の上一杯に広がって下さるのです。

「称名破満釈」は、宗教哲学的に豊かな働きの萌芽を供えている親鸞聖人の御言葉です。その表現を読み解くことは容易ではありませんが、海外異教徒異民族、国内現代社会人に受け留めて戴き易いように、その壁を乗り越えることが大切になって参ります。

ではどう頂戴しご案内するかは、偏に今日に残された者の勤めであります。

「称名破満釈」の中核は四段よりなります。

称名は、則ちこれ最勝真妙の正業なり。

正業は、則ちこれ念仏なり。

念仏は、則ちこれ南無阿弥陀佛なり。

南無阿弥陀佛は、即ちこれ正念なりです

は、南無阿弥陀佛と方便法身を称(たた)える諸仏称名の行いは、最も優れた真実の行い(正業)として衆生に回向され、

は、称名 聞名の「三昧」から終に衆生の心が澄む「澄浄」の働きに恵まれ、

心が澄む「澄浄」の働きは、「南無阿弥陀佛」の尊号から回向されるのであり、

心行(大信と大行)共に得しむ南無阿弥陀佛の尊号が終に衆生の胸の裡にお宿り下さる姿を「正念」と云う、ということになるのであります。合掌。

(ご案内:正覚寺のホームページは、「正覚寺北小松」でヒットする「FC2」からお入り戴けます)